

第 1 回

江東区こども・子育て会議

会議録

平成28年6月29日

日時：平成 28 年 6 月 29 日（水）午後 3 時～5 時 00 分

会場：江東区防災センター 4 階災害対策本部室

次 第

1. 開会
2. 新委員紹介・挨拶
3. 出席職員紹介
4. 議題 1. 江東区こども・子育て支援事業計画の取組結果（平成 27 年度）について
5. 議題 2. 保育専門部会議事・決定事項報告について
6. 議題 3. 「こうとう子育てメッセ 2016」開催概要について
7. その他
8. 閉会

会議資料

- 資料 1 平成 28 年度江東区こども・子育て会議委員名簿
- 資料 2 平成 28 年度第 1 回江東区こども・子育て会議出席職員名簿
- 資料 3 江東区こども・子育て支援事業計画の取組結果（平成 27 年度）について
- 資料 4 平成 28 年度第一回江東区こども・子育て会議保育専門部会での議事の概要及び決定事項について
- 資料 5 「こうとう子育てメッセ 2016」開催概要

出席者（敬称略）

○委員

氏名	所属団体等
榎田 二三子	学識経験者 武蔵野大学教授
藤巻 真由美	学識経験者 帝京学園短期大学教授
小森 恵美	福祉関係者 江東区公私立保育園園長会 (ひまわりキッズガーデン東雲 園長)
丸山 哲	福祉関係者 社会福祉法人そのえだ理事長 (江東区潮見保育園長)
塩崎 雅子	福祉関係者 グレース保育園長 (認可保育所移行経験事業者)
田浦 秀一	福祉関係者 株式会社グローバルキッズ取締役
杉山 恵美子	福祉関係者 株式会社ルーチェ取締役 (認可保育所移行経験事業者)
前川 広宇見	福祉関係者 江東児童相談所 所長
佐藤 貴子	福祉関係者 南砂子ども家庭支援センター センター長
秋山 三郎	福祉関係者 NPO 法人東京養育家庭の会川の手支部副支部長
光真坊 浩史	福祉関係者 こども発達センター塩浜 CoCo 園長
石塚 真姫子	保健関係者 東京都助産師会江東地区分会長
仲田 恵	教育関係者 区立幼稚園長会会長 (なでしこ幼稚園長)
伊藤 真成	教育関係者 私立幼稚園協会代表者
北島 千絵	地域活動関係者 民生・児童委員
後藤 晶子	公募委員
藤林 三穂子	公募委員

<欠席委員>

なし

○出席区職員

役職名	氏名	備考
こども未来部長	伊 東 直 樹	
障害者支援課長	山 崎 岳	
保護第一課相談係長	加 藤 善 久	保護第一課長代理出席
保健予防課長	鷹 箸 右 子	
子育て支援課長	堀 田 誠	
保育計画課長	河 野 佳 幸	
保育課長	石 井 康 弘	
学務課長	梅 村 英 明	
指導室長	本 多 健一朗	
放課後支援課長	遠 藤 幸 男	

<欠席区職員>

なし

<傍聴者>

1名

事務局連絡

堀田子育て支援課長	委員の出席状況について（前川委員公務により遅参）。 配布資料の確認。 傍聴者について。
-----------	---

1. 開 会

榎田会長	委員の皆様には、お忙しい中お集まりいただき、感謝する。 本日の会議であるが、会議次第に沿って進める。 質問等については、項目ごとに受けるが、会議の最後にも全体を通しての質問を受ける。 傍聴者への説明。
------	---

2. 新委員紹介・挨拶

榎田会長	事務局へ新委員の紹介を依頼及び新委員へ挨拶を願う。
堀田子育て支援課長	新委員紹介（2名・任期：平成29年3月31日）。
佐藤委員	挨拶。
榎田会長	各委員へ自己紹介を依頼。 自己紹介。
各委員	自己紹介

3. 出席職員紹介

榎田会長	事務局へ会議出席職員の紹介を願う。
堀田子育て支援課長	会議出席職員の紹介。
出席委員	各会議出席職員挨拶。

4. 議 題 1

江東区こども・子育て支援事業計画の取組結果（平成27年度）について

榎田会長	議題1、江東区こども・子育て支援事業計画の取組結果（平成27年度）について、本会議の役割の一つとして、事業計画に定められた事業の進捗管理を行っていくとすることがある。平成27年度の事業報告及び28年度の実施予定について説明を受け、質疑と意見交換を行うことにより、今後の計画に役立てていこうという趣旨である。 計画は大きく4項目に分かれているため、説明と質疑は項目ごとに行い、最後にまた質疑と意見交換を行う。 最初に1. 教育・保育事業の説明を事務局へ願う
堀田子育て支援課長	<資料3、ページ1～2 1. 教育・保育事業の説明>
榎田会長	質疑に移る。質問のある方の発言を願う。
榎田会長	表の増減欄のマイナスは、計画に対して実績がどうだったかということか。
堀田子育て支援課長	はい、そうです。

榎田会長	2. 地域こども・子育て支援事業の説明を事務局へ願う。
堀田子育て支援課長	<資料3、ページ3～12 2. 地域子ども・子育て支援事業の説明>
榎田会長	質疑に移る。質問のある方の発言を願う。

北島委員	次回、ニーズ量のアンケート調査を実施する時の要保護児童等に対する事業の場合は、その家庭だけではなく、民生委員や子ども家庭支援センターなどにも実施した方がよい。
堀田子育て支援課長	25年度に行ったアンケートは無作為抽出でのアンケートで、その中に要保護の方、要支援の方は、それほど入っていないと思う。そのため今回の計画を立てるときには、アンケート結果ではなく、実際の過去の実績の平均値でニーズ量は算定した。アンケート調査方法等については今後の検討課題とする。

北島委員	子ども家庭支援センターの子育てひろばのニーズ量が低い、何か対策はないのか。
堀田子育て支援課長	昨年度からこどもまつりや区民まつりで子ども家庭支援センターのPRを実施している。今後もいろいろな機会を捉えて子ども家庭支援センターで子育てひろばをやっているということの周知を図っていきたい。

秋山委員	学童保育について、江東きつずクラブが来年度全校開設ということであるが、質の問題を懸念している保護者がいるようであるがどうか。
遠藤放課後支援課長	江東きつずクラブは平成29年度に全校展開を目指して設置している。B登録のない学校については近隣の学童クラブをB登録と同等の整備をして、担保している。質の向上のためにアンケートを実施したり、その他いろいろな意見を伺いながら質の確保にも努めているところである。定員の関係では、A登録は希望者全員を登録。B登録と学童クラブは、ごく一部の登録できないところは近くのきつずクラブや学童クラブで空きがあるところを紹介している。

秋山委員	ショートステイのニーズが多いのに、現状の受け入れ施設は亀島だけであるが、子育て支援課では新たな方策を考えているのか。
堀田子育て支援課長	子育て支援課としても、ショートステイが亀島の1カ所で定員3人だけで、かなり逼迫しているということについては同じ認識を持っている。今後、新しい施設を考えるのか、あるいは別な方策を考えるのかを含めて、夏の予算の時期までにはできるだけ新しい方向性を出していきたいと思っている。

藤林委員	乳児家庭全戸訪問事業は、すごく中途半端な事業だと思う。事業目的は産後の鬱や産後の女性のサポートということだと思うが、保健所の職員と信頼関係がしっかりできていないといけないし、産後間もない時期で女性がすごく不安定になる時期で、全力でサポートしなければいけない時期に、とりあえず全戸訪問をしたという感じで、どれだけ効果がある事業なのかすごく疑問に思う。乳児家庭全戸訪問事業の現状と、今後の展望を聞きたい。
鷹 箸 参 事 (保健所保健予防課長)	当初、第1子のお子さんが生まれたご家庭だけに始まった事業だが、数年前からは全戸訪問となっている。内容は、産後鬱対策の部分が多い。自宅を訪問し赤ちゃんとお母さんの状況について伺う。今年4月からは妊娠出産支援事業、愛称「ゆりかご江東事業」を開始した。妊娠中からの面接を始め、信頼関係の持てる良い展開になればと思う。
石塚委員	信頼関係という点は、訪問する人にもよるものかなと思う。江東区の保健所はいろいろなことをやっているの、是非、出かけるようにほかのお母さんたちにも教えていただければと思う。

鷹 箸 参 事 (保健所保 健 予 防 課 長)	27名の助産師さんが保健相談所の委託事業として、区内全域の産婦さんや新生児宅を訪問している。今日のご意見は反省しなければいけない部分で、助産師さんたちと情報共有しながら、いい形でお母さんの安心、赤ちゃんの安全、それから孤立しない子育てという形の事業につなげていきたいと思う。
-----------------------------------	---

後藤委員	保育計画課の保育園事業の増減理由について、「土地の確保困難や」と記載されているが、ほかの地方自治体では公園の中に保育園を設立することについて、地域の住民とやりとりがあったというニュースをみたが、江東区でも区の空き地や都と調整しなくてはいけない土地などで保育園の設立を実際に行っていることがあるか。
河野保育計 画課長	保育施設の整備にあたっては、区の中で更地を探すことは、非常に難しい状況である。27年度には区有地を使って保育園整備を1園実施した。 公園内での保育園整備については、都市公園法の規定により保育園は建てられないこととなっている。しかし、昨今の保育待機児童の解消に向けて、特区の申請という形で都市公園の中にも保育園を建てられるケースがある。本区においても、特区の申請をして保育園整備を進めていくという考えは検討してきており、今、進めているところである。

藤村委員	一時預かり事業の計画のニーズ量と実際の潜在的なニーズとでは、すごく乖離があると感じる。去年、長女と次女を幼稚園に預けながら就労したが、幼稚園の夏休み、冬休みの時期に非定型一時保育を活用したいのだが、どこの保育園でも激戦で、利用することが難しい状況であった。 非定型一時保育に関してであるが、計画のニーズ量は1年間であり、それに基づき予算や人数の割り振りが平均的にされていると思うが、今後、夏休み、冬休み、春休みなどニーズが高まる時期ごとの計画とする予定はあるか。
石井保育課 長	非定型一時保育を実際に行っている保育園は、28年度現在16園ある。非定型一時保育の充実以前に認可保育園に入れないという待機児童の問題もある。非定型を実施している保育園については専用のスペースを使っているため、預かることのできる人数が限られている。定員設定の中で、できるだけ拡大できるようにということで計画は立ててはいるが、ニーズ量とは合っていないという状況もあり、認可保育園の待機児童問題も含めてうまく解決できないものかと思っているが、現状としては限られた枠の中で預かるというような状況である。

石塚委員	新生児訪問に行っていたときに病後児保育のことについてお母さんたちが知っておいたほうが良いと思って話しをしたことがあるが、病後児保育は知っているが、書類が膨大で提出するのが大変だとのことだった。記録などもっと簡単で他の病院と共通して提出できるようなものであれば良いと思う。
石井保育課 長	現在、4カ所で病児・病後児保育を実施している。当日のキャンセルなどがあり利用率が低いということもあるが、保育園を通じてのPRや手続を簡素化して預けやすい環境にすることについて、今後も研究・検討していきたいと考えている。

杉山委員	一時預かりのことだが、私の会社では認可保育園と認証保育所の両方について江東区で運営させていただいている。認証保育所は、保育士が確保できれば空きスペースの中で一時預かりをすることができる状況ではある。また、定員が埋まっている場合でも、定員の弾力という制度があり、保育士の数と面積があれば一時預かりはできる。ただ、春休みや夏休みになると預ける期間が長くなり、預ける側としても金銭面で預けることが難しいということもあるようだ。 江東区では、施設に対し月決めの運営費の補助はあるが一時預かりの運営費の補助はない。他区では一時預かりの運営費の補助を出しているところもあるようなので、施設への運営費の補助か、一時預かりを利用した保護者の負担軽減を検討していただければと思う。
------	--

石井保育課長	現在、区では認証保育所に対し一時預かりの補助は実施していない。但し、認可保育園16園で保護者の短期間の労働、通院等により、一時的に保育を必要とする方に保育を実施しており、区からの補助も出している。認証保育所まで補助対象を広げるかということについては、今後の検討課題と考えている。
塩崎委員	私の施設は平成27年に認証から認可保育園に移行した。認証では一時保育をやっていたが、認可に移行したら要件が合わなくなって一時保育はできなくなった。要件を緩めて、認可保育園でも一時保育をできるようになれば良いと思う。保護者のニーズに応えられるように、検討を願いたい。
石井保育課長	認可保育園での実施については基準等もあるので、要件を満たすのであればということにはなるが、緩和することについては今後の問題として考えている。

榎田会長	3. 幼児期の学校教育・保育の一体的提供及び推進体制の確保の説明を事務局へ願う。
堀田子育て支援課長	<資料3、ページ13～14 3、幼児期の学校教育・保育の一体的提供及び推進体制の確保の説明>
榎田会長	質疑に移る。質問のある方の発言を願う。

秋山委員	小松橋地区青少年対策委員会では、本年度の総会の後に、幼稚園、保育園、認可保育園並びに幼稚園の関係の方もおいでいただいた。 幼保連携であるが、子どもたちだけの連携ではなく、保護者や地域も含めた形にしたい。地域として子育てをどうしていくかということをごども・子育て会議としてどう発信していくか、また、各地域、各学校、各保育園、各幼稚園の方々にもそういった取り組みをお願いしたい。子どもを育てるといのは地域全体ですることなので、区全体としての子育てということをごこの会議で発信していきたいと思う。
榎田会長員	特に回答はなくて良いか。
秋山委員	回答はらない。

北島委員	14ページの2番、幼稚園、保育園から小学校への円滑な接続支援だが、中学校もぜひ入れていただきたい。
本多指導室長	江東区の連携教育には中学校も入っている。中学校も一緒に会議をして、情報交換をしている。あわせて指導室では、スクールソーシャルワーカーを配置して、幼稚園も小学校も中学校も全部回っており、連携を図っている。また、中学校の子どもたちが保育園や幼稚園に行つて保育体験をする等、様々な形で実施しており、今後もさらに連携を図っていききたいと思う。

榎田会長員	4、その他の推進事業説明を事務局へ願う。
堀田子育て支援課長	<資料3、ページ14 4、その他の推進事業の説明の説明>
榎田会長	質疑に移る。質問のある方の発言を願う。

光真坊委員	こども発達センターは、障害のあるお子さんなど発達支援が必要なお子さんに支援、療育を届ける施設です。 1つ目は、障害のある子どもさんの保育教育について、計画の中には具体的には書かれていないと思うが、どれくらい受け入れていただいでどれくらい支援がされているのかということをご説明願いたい。 2つ目は、他区では医療的ケア児の、特に保育園、幼稚園等に行けない重症心身障害のお子さんなどの居宅訪問型保育事業を地域保育事業でやっているところも増えていると聞いている。具体的なニーズがないのかもしれないが、もしニーズがあれば取り組む可能性があるのかどうかについて聞きたい。
-------	---

山崎障害者支援課長	重症心身障害児に対する居宅訪問型保育事業だが、かなり重症な心身の障害を持ったお子さんのケアを行うため医療的な知識が不可欠で、難しい課題がある。件数は定かではないが、他区では、実際に居宅のほうの支援などを行っているようである。 また、教育分野の受け入れ体制だが、きつずクラブなどに関しては、受入れ人数に関しては増加している状況だ。
-----------	---

秋山委員	支援事業計画の69ページ、虐待防止対策については、児童相談所と連携しながらやっており、来週、江東区要保護児童地域協議会の代表者会議が開かれ、情報共有を図っている。江東区の医師会では、4、5年前になるが虐待の発見のポイントについて、冊子を作って、学校その他に配付していただいている。 私ども里親が預かる子たちは、大げさに言えばほぼ100%何らかの虐待を受けてきた子どもたちなので、保育園、幼稚園の関係の方には、保育士、幼稚園教諭に子どもたちの様子、体の状況をよく見ていただくことを願いたい。 区には、現在、年1回開催している要保護児童地域協議会代表者会議を年度初めと年度末の年2回の開催を要望する。
堀田子育て支援課長	要対協の全体会議について、現在年1回の開催を2回ということだが、今後どうかは検討させていただきたいと思う。

前川委員	児童相談所における虐待対応の案件は非常に多く、中身も非常に重たいものがある。通告の1割から2割ぐらいは非常に重たいケースという認識を現在持っている。先ほど話しがあつたが、要保護児童対策地域協議会を27年度には152回開催し、回数以上に中身の濃いやりとりを行っている。江東区の子ども家庭支援センター、子育て支援課とは、非常に良い連携をとらせていただいている。しかし、良い連携があっても重い事案は起きるので、先ほど秋山委員からも話があつたが、引き続き関係機関と連携をとりながらしっかりと対策をとってまいりたいと考えている。
------	---

藤林委員	虐待防止という形で言葉として強く出されてしまうと子育てしている母親はすごくプレッシャーを感じるところがあつて、その辺に関してどのような考えで虐待防止対策を実施しているのか方針などを伺いたい。
堀田子育て支援課長	虐待、あるいは虐待防止という話になると非常に強い響きがあるというのは確かにご指摘のとおりかと思う。今、江東区では、虐待に対する対応というのは2種類考えている。1つは、現に虐待をしてしまっている方に対して、虐待の進行を食い止めということで、児童相談所と一緒にあって、よりひどくならないようにそこに介入をしていくというアプローチである。もう一つは虐待予防として、不安の強い方などに対するサポートを虐待対策とあわせて進めていこうということである。 例えば、今年度から始める3歳以上のお子さんを持っている保護者の方を対象に、しつけの講座「江東ハッピー子育てトレーニング事業」を実施し、怒ったりたたりしないでもちゃんと親の意思が伝わるような、そういうしつけの仕方を学んでもらおうという講座をここの9月から始める。ほかにも子ども家庭支援センターでの相談事業で、子育てに不安に感じている方、悩んでいる方が虐待に発展する前に何とか食い止めようという事業にも今後力を入れ、両輪という形で虐待の件数を減らしていこうと思っている。

榎田会長	他に何かないか。
各委員	特になし。

5. 議 題 2

保育専門部会議事・決定事項報告について

榎田会長	議題2、保育専門部会議事・決定事項報告についてを藤巻保育専門部会長へ願う。
藤巻副会長 (保育専門 部会長)	平成28年4月20日に第1回保育専門部会を開催し、家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準の一部を改正する省令への対応についてを審議した。 検討、決定した内容について、事務局から説明する。
河野保育計 画課長(保 育専門部 事務局)	<資料4の説明>
榎田会長	質疑に移る。質問のある方の発言を願う。
各委員	特になし。

榎田会長	幼稚園教諭、小学校教諭、養護教諭を保育士としてみなせるようにする、というところの幼稚園や小学校の教諭、それから養護教諭というのは、ゼロ歳から2歳の担当になる可能性があるのか。
河野保育計 画課長	国の省令改正の技術的な助言という中では、基本的には今回の緩和措置によりその可能性はあるが、実際問題として幼稚園教諭は、その該当する年齢層、例えば3歳児、小学校教諭は4、5歳児という形が望ましいというような文言で今回の通知が来ている。ただ、それがだめだというわけではなく、幼稚園教諭、小学校教諭が、実際に0歳児の保育の経験があれば可能だと思うが、経験がない中で、いきなり0歳児もしくは1歳時の保育を行うということは難しい部分があるので、ケース・バイ・ケースかと思う。柔軟に対応していくということで、国としては、推奨という部分ではそのような年齢の示し方をしている。

榎田会長	他に何かないか。
各委員	特になし。

6. 議 題 3

「こうとう子育てメッセ2016開催概要」について

榎田会長	議題3、こうとう子育てメッセ2016開催概要について説明を願う。
子育て支援 課長	<資料3の説明>
榎田会長	質疑に移る。質問のある方の発言を願う。

伊藤委員	区の私立幼稚園協会を代表して来ているが、それぞれの幼稚園には特色があるので、1つのブースに出て、1人の先生が話すことは難しいと思う。資料だけでも置かせてほしいと思うので、検討を願いたい。
堀田子育て 支援課長	ブースの出し方等については工夫をさせていただきたい。資料については、出していきたい資料があればどんどん出していただきたい。それについては個別に相談をさせていただきたいと思うので、ぜひご協力を願いたい。

7. その他

榎田会長	本日の会議の総括を藤巻副会長に願う。
藤巻副会長	<p>本日は3つの議題について話があった。</p> <p>まず江東区こども・子育て支援事業計画の取り組み結果について、平成27年度の事業報告及び28年度の実施予定について説明があった。事業内容、計画について、1. 教育・保育事業、2. 地域こども・子育て支援事業、3. 幼児期の学校教育・保育の一体的提供及び推進体制の確保、4. その他の推進事業の母子保健事業、児童虐待防止策等について事務局から説明があり、質疑が行われた。</p> <p>2番目の議題として、保育専門部会における議事・決定事項の報告、家庭的保育事業の設備及び運営に関する基準の一部改正について審議いたした内容の説明があり、質疑が行われた。</p> <p>3番目に、こうとう子育てメッセ2016ということで、平成28年11月27日に開催される内容について、概要についての議題あり、質疑が行われた。</p> <p>以上であるが、活発な質問、意見の中で前向きな区からの回答をいただいたが、子育て中の方やその関係者にこの子育て支援事業が周知され、利用されていく必要があることを感じた。</p>

榎田会長	事務局より事務連絡を願う。
堀田子育て支援課長	<p>次回の開催は8月の下旬を考えている。ご案内については、改めてご連絡をするので、よろしくお願ひしいたい。</p> <p>事務局からは以上。</p>

8. 閉 会

榎田会長	それでは、以上をもって本日の会議を終了する。 時間を延びての活発なご意見、お礼申し上げます。
------	---

以 上